



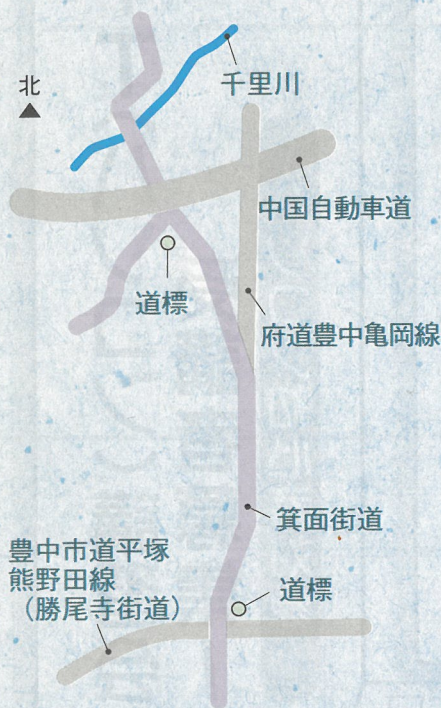
16

箕面街道・

豊中市桜の町く上野東

橋を渡って300mほど

進み、中国自動車道の高架の下をくぐり抜けると道は左右に分かれます。ここに板状の自然石を使った道標があります。正面の真ん中に箕面寺（現瀧安寺）の開



江戸時代には、ここで左へ曲がって大坂へ向かっていましたが、明治時代以降は右の方へ進み、阪急豊中駅前で能勢街道に合流して大坂へ向かうようになりました。道標に刻まれているのが「大坂」ではなく「大坂」であることが、この道標が明治時代以後に建てられたことを証明しています。

今回は、江戸時代の道をたどることにして、左へ進んで行くと、箕面からここまで続いて来た街道は「府道豊中亀岡線」に合流し、昔の道の面影を失ってしまっています。しかし、拡幅されて府道になったとはいえ、道沿いには、江戸時代に建

豊中亀岡線との合流点か

ら南へ、1 kmほど行くと「豊中市道平塚熊野田線」との交差点に着きます。交差点の左手には、南面に「役行者」の姿と「すぐみのを山 かつをう寺道」、東面に「すぐいたみ 中山 きち」、西面に「すぐ 上新田 京道」北面に「大坂はっとり天神道」の行き先が刻まれた道標があります。



ここで左に曲がると、箕面市の今宮で西国街道に合流し、さらに進み外院を経て、勝尾寺へたどり着くことが出来ることから、豊中市ではこの道に「勝尾寺街道」の名称をつけました。箕面市では勝尾寺と大坂を結ぶ最短の道であることから、「勝尾寺・大坂道」と呼んでいます。

今は多くの車が通行する
2本の府道が、昔は街道で
あったことを、この道標が
教えてくれます。